



Leaf

平成18年2月
盛岡市三本柳6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 利部 輝雄

盛岡赤十字病院医療連携だより No.8

基本理念

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



ご挨拶

副院長 兼 地域医療連携室長 村井啓子

先生方にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、日頃から当院に対しまして御支援ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

先ごろ、診療報酬の引き下げが決まりました。また、高齢患者の自己負担が段階的に引き上げられようとしており、医療関係者にも患者様にも厳しい環境となってきました。このことが、医療の質の低下や受診抑制につながり、重症化による医療費の上昇などの悪循環にならないよう祈るところであります。

医療は、国の方針によりかつての病院単独完結型から地域医療完結型へと変化しております。当院も地域医療の一端を担う急性期病院として、この医療圏のなかで効率的な質の高い医療を提供するため、地域のそれぞれの医療機関と役割分担をして連携すること第一に考えております。しかし、患者様の病院指向は相変わらずで、医療機関の役割を理解していただくため啓蒙を続けております。また、医療の透明性と安全性が求められている今、当院では、医療安全、感染防止、医療情報システムの充実に取り組んでおり、委員会と職員研修を積極的に行っております。臨床研修病院としての機能、赤十字病院の特色である災害救護、そして地域の皆様のための救急医療も当院の使命として充実するように努めております。

これからも当院の役割を果たすために職員一同努力してまいります。お気づきの点をご指摘、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしましてご挨拶といたします。よろしくお願い申し上げます。

退院支援体制を紹介します

地域医療連携室は、事務3名で紹介患者様の受け入れにかかる業務を主として行っていますが、昨夏から医療社会事業室において退院支援業務を開始しました。担当は、看護師長、保健師、医療社会事業司がひとりずつ計3名です。

今も医師主導により転院先が決まることがほとんどですが、最近様々な事情のため退院後の行き先が簡単には決まらないケースが増えてきました。当院は急性期病院としての役割を担っておりますので、次々と新たな入院が必要な患者様が来院します。急性期治療が終わった入院患者様には、次の患者様のために自宅療養、自宅で訪問診療や訪問看護、自宅が無理な場合は一般病院、リハビリや療養型の病院、あるいは介護関係の施設など症状に応じて退院、転院をしていただくこととなります。ズーっと日赤に入院というのは、地域での医療の役割分担がありますのでできません。患者さまとご家族の希望に添うような退院を目指して、関連機関と密に連携をとり、切れ目の無い医療の提供で、安心して退院できるような支援をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

退院支援体制は、院内ルールを作成して運用を開始してまだ半年です。また、転退院困難事例を扱っている関係上、件数は多くありませんが右のグラフのとおりの実績となっています。

退院支援担当は、地域医療連携室とは別の部屋です。(電話:代表019-637-3111 医療社会事業室)

転院患者様の保険情報等のお問い合わせは、従来どおり地域医療連携室(電話:019-637-3312)までお願いします。

医療社会事業部
保健指導看護師長 高橋淑子

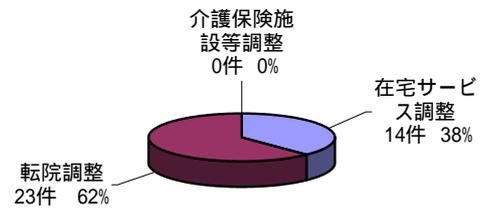


図1 退院支援の内容

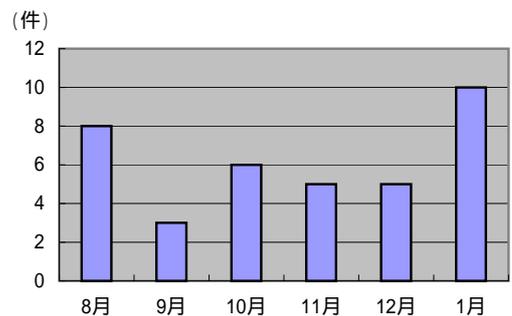


図2 月別退院調整件数

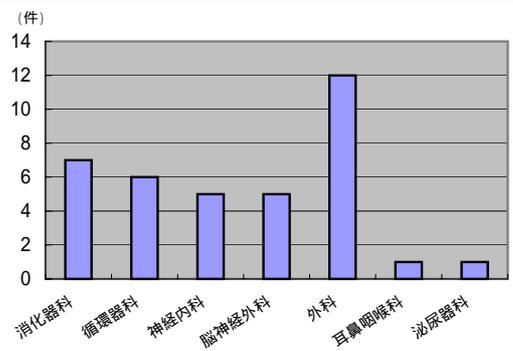


図3 診療科別紹介数

御意見箱から

当院では、1階の待合ホールと各病棟に御意見箱を設置し、当院に対する意見や要望などを患者様に自由に書いていただいております。

御意見箱は週に1度回収し、改善や回答を要することについては、担当部署で速やかに対策を講じ対応を掲示しているほか、記入された本人へ回答をお送りすることもあります。院内では「御意見箱だより」として職員全員が目を通し、同じ事例を繰り返さないよう気をつけることとしております。なお、担当職員が直接お話を伺う「苦情相談」窓口も総合受付にあります。

自分では気付かないこともありますので、ご指摘いただいたことはひとつひとつ改善していきたいと思っております。



新任医師の自己紹介コーナー



第一外科部長
旭 博史

永らく勤めました岩手医科大学を退職して、平成17年9月から日赤に勤務しております。大学との大きなちがいは、学生、大学院生がいないということに尽きます。これからは教育、研究、診療の三つの基本のうち診療面に比重を置くこととなります。「手術は理論に基づいて行わなければならない」との信念のもとに、「身体に優しい外科治療」を実践していきたいと思えます。新しい環境にもようやく慣れましたが、今年の冬の寒さは名古屋出身には少々堪えます。これからも宜しくお願い致します。

学術講演会のご案内

先生方の参加をお待ちしております

日時 平成18年2月27日(月) 18:30～
場所 当院 2階 記念講堂

特別講演 「急性肺障害とその治療戦略」

岩手医科大学医学部 救急医学講座教授
岩手県高度救命救急センター長

遠藤重厚先生

座長 当院 久保直彦 第一脳神経外科部長

連携室からのお知らせ

鈴木 豪 第二脳神経外科部長・小室 堅太郎 循環器科医師
1月末をもって退職いたしました。

整形外科の外来診療について

人事異動が予定されておりますので
八幡順一郎 整形外科第一部長は
1月末をもって 外来診療を終了しまし
た。

新任医師が着任しました

1月	総合内科	副部長	足澤 美樹
	耳鼻咽喉科	副部長	横山 哲也
	脳神経外科	医師	小守林 靖一
	神経内科	医師	大平 泰子
2月	循環器科	副部長	齋藤 雅彦

自己紹介は次号に

御意見箱を開けてみると……

- ・丁寧に診察してしっかり説明してもらった。 ・患者の意見を聞き説明してくれるので安心して治療を受けることができた。 ・献身的で人情味溢れる看護のお陰で心も体も元気を取り戻した。
 - ・もっと患者の立場になって診察してほしい。 ・信頼関係なくして病気の治療が成り立ちますか。
 - ・予約の意味がない。 ・待ち時間が長すぎる。
 - ・日赤が近いのに開業医へ紹介された。 ・かかりつけ医への協力をしたのに医療費が高い。 などなど 沢山のご意見をいただいております。
- この他に、食事や施設・設備へのご意見・ご要望・クレーム、お褒めの言葉や感謝の言葉があります。